

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
国語(書写を含む) Japanese Language(including Calligraphy)		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	和田 征文	
概要				
1 小学校の教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 2 学習指導要領・国語の「書写に関する事項」を基にしながら、書写指導の実際を学習する。 3 上代から近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。				
到達目標				
(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。 (2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が鉛筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。 (3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語る事ができる。				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 「国語」の学習の意味と内容 2 国語科の目標 - 3つの内容と構成- 3 国語科の〔知識及び技能〕の概観 4 国語の音韻に関する事項 5 文字に関する事項 ①漢字と仮名 6 文字に関する事項 ②漢字の成り立ち 7 文字に関する事項 ③漢字の部首・熟語 8 表記に関する事項<仮名遣い> 9 文及び文章の構成に関する事項 10 言葉遣いに関する事項<敬語> 11 語句に関する事項 ①語彙の種類 12 語句に関する事項 ②語彙の学習 13 言葉の働きや特徴に関する事項 14 方言に関する学習 15 言語文化に関する事項		<b>【後期】</b> 1 「書写」学習の意味と内容 2 硬筆による書写(低学年) 3 フェルトペンによる書写(中学年) 4 毛筆による書写 ①楷書・漢字(中学年) 5 毛筆による書写 ②楷書・仮名(中学年) 6 毛筆による書写 ③漢字と仮名(高学年) 7 毛筆による書写 ④行書(高学年) 8 筆ペンによる書写 ①平仮名 9 筆ペンによる書写 ②日常の書式 10 筆ペンによる書写 ③連綿 11 「日本文学史」上代の文学 12 「日本文学史」中古の文学 13 「日本文学史」中世の文学 14 「日本文学史」近世の文学 15 「日本文学史」近代の文学		
成績評価 方法	1. 前期国語一定期試験(知識)70%、平常のレポート等(関心・意欲・態度)30% 2. 書写指導—提出作品による評価(知識・関心・意欲・態度)60% 3. 日本文学史—授業後のレポート、総括レポートによる評価(表現・関心)40% 以上を総合して「通年」で評価する。			
テキストおよび 参考文献	講義・演習用テキスト「国語(前期)」「国語(後期)」(和田征文編著) 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 秋山 虔・三好 行雄「新日本文学史」文英堂 「国語便覧」浜島書店・教研出版・東京書籍			
メッセ ージ な ど	1 2年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業 2 書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
社会 Social Studies		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択	中原 隆	
概要				
<p>社会科全般についての基礎的な知識を身につけるとともに、社会的な見方や考え方ができるようになり、よりよき市民・国民としての自覚をもつことができるようになる。</p> <p>併せて、社会科教師として使命感・責任感をもって教壇に立つ心構えを醸成する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料を活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。</p> <p>(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>1 前期の学習計画</p> <p>① オリエンテーション</p> <p>2 社会科で求められる学力</p> <p>② 採用試験問題の分析</p> <p>③ 高校入試問題の分析</p> <p>④ 社会科の目標と構造</p> <p>3 地理的な見方・考え方の基礎</p> <p>⑤ 地図と地球儀</p> <p>⑥ 地形図と地図記号</p> <p>⑦ 地域社会の調査①</p> <p>⑧ 地域社会の調査②</p> <p>⑨ 日本の都道府県</p> <p>4 歴史的な見方・考え方の基礎</p> <p>⑩ 時代区分と時代の特色</p> <p>⑪ 歴史的思考力の育成</p> <p>⑫ 年表や歴史資料の活用</p> <p>⑬ 人物学習①</p> <p>⑭ 人物学習②</p> <p>5 前期の学習の振り返り</p> <p>⑮ 学習評価と授業評価</p>		<p>1 後期の学習計画</p> <p>① オリエンテーション</p> <p>2 第3・4学年の社会科</p> <p>② 目標と内容、内容の取り扱い</p> <p>③ 地域の先人のはたらき①</p> <p>④ 地域の先人のはたらき②</p> <p>3 第5学年の社会科</p> <p>⑤ 目標と内容、内容の取り扱い</p> <p>⑥ わたしたちの国土</p> <p>⑦ 我が国の自然と人々の生活</p> <p>⑧ 日本の第1次産業</p> <p>⑨ 日本の第2・3次産業</p> <p>4 第6学年の社会科</p> <p>⑩ 目標と内容、内容の取り扱い</p> <p>⑪ 日本の歴史①</p> <p>⑫ 日本の歴史②</p> <p>⑬ 日本の歴史③</p> <p>⑭ 日本の政治制度</p> <p>5 1年間の学習の振り返り</p> <p>⑮ 学習評価と授業評価</p>		
成績評価 方 法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 定期試験（知識・理解、思考力・判断力・表現力）50%			
テキストおよび 参 考 文 献	<p>テキスト：「社会」山口短期大学</p> <p>参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社 小学校社会科用教科書「あたらしい社会（3～6年）」東京書籍</p>			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、一人でも多くの社会科好きの先生を育てたい。社会科のおもしろさの神髄にふれましょう。</p> <p>小学校教諭二種免許の選択必修科目ですが、是非受講を勧めます。</p>			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
算数 Arithmetic		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択必修	山根 郁夫	
概要				
算数科の各領域6学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導するための基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な見方・考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的な学習や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。				
到達目標				
(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。 (2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取り組むことができる。 (3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 オリエンテーション・数と四則演算 2 数(整数)概念の形成 3 命数法と記数法 4 十進数、非十進数 5 加法の意味と計算 6 減法の意味と計算 7 乗法の意味と計算 8 除法の意味と計算 9 整数の性質 10 概数、概算 11 小数の意味と計算 12 分数の意味と加法、減法 13 分数の乗法、除法 14 量概念の形成と測定 15 長さ、重さ、時間、容積、角度		<b>【後期】</b> 1 平面図形、平面図形の性質 2 立体図形、立体図形の性質及び展開図 3 図形の合同 4 図形の対称、拡大、縮小 5 円と正多角形 6 平面図形の面積 7 円周と円の面積 8 立体の体積 9 平均、単位量、速さ 10 割合とグラフ、比 11 比例、反比例 12 量の単位とメートル法 13 計算法則と演算の工夫 14 資料の整理とグラフ 15 場合の数		
成績評価 方 法	毎回の学習状況(関心・意欲・態度)30%、 ワークプリント・算数活動(思考力、判断力・表現力)30%、 定期試験(知識・理解、思考力)40%			
テキストおよび 参 考 文 献	講義資料、プリント類はその都度配付する。 文部科学省「小学校指導要領解説 算数編」 小学校算数教科書			
メ ッ セ ー ジ な ど	小学校6年間の算数科学習内容の重要事項を領域・系統に沿って体系的に学習し、算数の有用性や数学的な考え方のよさを見出しましょう。 小学校教諭二種免許：選択必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
理科 Science		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択	西田 稔	
概要				
<p>自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科教育について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。</p>				
到達目標				
<p>(1) 小学校理科教育の目標や内容を理解する。  (2) こどもの発達・自然認識の仕方を、自然現象をとおして理解する。  (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につける。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 教科「理科」について 理科の目標と内容 2 第3学年の理科「物と重さ」 3 第3学年の理科「風とゴムの力の働き」 4 第3学年の理科「光と音の性質」 5 第3学年の理科「磁石の性質」 6 第3学年の理科「電気の通り道」 7 第3学年の理科「身の回りの生物 昆虫」 8 第3学年の理科「身の回りの生物 植物」 9 第3学年の理科「太陽と地面の様子」 9 第4学年の理科「空気と水の性質」 10 第4学年の理科「温度」 11 第4学年の理科「電流の働き」 12 第4学年の理科「人の体のつくりと運動」 13 第4学年の理科「季節と生物」 14 第4学年の理科「雨水の行方と地面」 15 第4学年の理科「天気」  2年次に開講の理科教材研究との分野、学習および研究内容、方法との連携をもって講義を進める。		<b>【後期】</b> 1 第4学年の理科「月と星」 2 第5学年の理科「物の溶け方」 3 第5学年の理科「振り子の運動」 4 第5学年の理科「電流がつくる磁力」 5 第5学年の理科「植物の発芽、成長、結実」 6 第5学年の理科「動物の誕生」 7 第5学年の理科「流れる水の働き」 8 第5学年の理科「天気の変化」 9 第6学年の理科「燃焼の仕組み」 10 第6学年の理科「水溶液の性質」 11 第6学年の理科「てこの規則性」 12 第6学年の理科「電気の利用」 13 第6学年の理科「生物と環境」 14 第6学年の理科「土地のつくりと変化」 15 第6学年の理科「月と太陽」		
成績評価 方 法	定期試験（知識・理解）・思考力 60% 毎回授業のレポート（関心・意欲・態度・理解・思考力） 40%			
テキストおよび 参 考 文 献	小学校理科教科書3年、4年、5年、6年 文部科学省「小学校指導要領 理科編」 文部科学省「小学校学習指導要解説 理科編」			
メ ッ セ ー ジ な ど	理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践と理科授業におけるアクティブラーニングについて学習します。小学校教諭二種免許：選択必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
生活 Life Environments		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択	川上 認	
概要				
<p>小学校1、2年生対象の総合的な教科である生活科の特設的な意義を知り、その目標や内容の理解を深める。</p> <p>「直接的な活動や体験重視」の教科であり、3学年以上の「理科や社会科の学習の基礎」を培うという特質的性格を究明していく。</p>				
到達目標				
<p>(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し、説明できる。</p> <p>(2) 小学校学習指導要領に記載された生活科の4つの目標と9つの内容とその扱い方がわかり、解説できるようになる。</p> <p>(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】		【後期】		
<p>1 生活科設置の背景と趣旨</p> <p>2 生活科の目標</p> <p>3 生活科の内容1～3</p> <p>4 生活科の内容4～6</p> <p>5 生活科の内容7～9</p> <p>6 自然との触れ合い計画立案</p> <p>7 春の遠足実習</p> <p>8 栽培活動(1) 畑づくり</p> <p>9 (2) 野菜の植栽</p> <p>10 飼育活動(1) メダカの飼育方法</p> <p>11 (2) 飼育の実際</p> <p>12 交流授業の計画(対)～小学校参観</p> <p>13 交流授業の実践</p> <p>14 遊び教材づくり(例) シャボン玉</p> <p>15 遊びの実際</p>		<p>1 生活科の全体計画・年間計画</p> <p>2 生活科の単元計画の作成</p> <p>3 指導案の作成(1) 作成上の留意点</p> <p>4 (2) 指導案の作成</p> <p>5 生活科の評価の基本</p> <p>6 評価基準と評価規準</p> <p>7 自然との触れ合い体験計画</p> <p>8 秋の野山の散策 例) 右田ヶ岳</p> <p>9 栽培活動の実際(1) 秋植えの野菜</p> <p>10 (2) 秋の収穫体験</p> <p>11 交流活動の計画 対) 附属幼稚園</p> <p>12 交流活動の実際</p> <p>13 自然物を使った遊び 例) 糸電話等</p> <p>14 季節的行事の計画 例) もちつき</p> <p>15 季節的行事の実際</p>		
成績評価 方 法	試験(知識・理解)20%、体験活動への取り組み姿勢(思考力・創造力)50%、受講態度(関心・意欲)30%の総合評価			
テキストおよび 参 考 文 献	文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」 日本文教 山口短期大学授業用テキスト「生活」 山口短期大学			
メ ッ セ ー ジ な ど	体験活動を重視した教科なので、大学キャンパスより外に学習の場を設けることもあり、広く実践的に社会や自然に働きかける活動をします。 小学校教諭二種免許：選択必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
音楽 Music		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	山崎 凱千	
概要				
<p>小学校の先生として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、先生自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的スキルを養う。</p> <p>グループ演習をととしてアンサンブルをする体験を習得する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。</p> <p>(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。</p> <p>(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、スキルを向上させることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 講義の全体目標及び概要説明 2 音の長さ・音符と休符について 3 音の高さ・音名と階名 4 音の強さ・音の色・味わいの考察 5 音楽用語と各種記号の意味するところ 6 リズムと速度、リズムと拍子について 7 ソルフェージュ・聴音 8 リズムの変化、反復、終止感 9 曲想、アンサンブル —グループ演習— 10 指揮の仕方、指揮者の役割 11 ハ長調の音階とイ短調の音階 12 アンサンブルと指揮者の務め 13 音楽の歴史の概要をつかむ 14 形式美・鑑賞教材のとらまえ方 15 移調・転調、楽典総論		<b>【後期】</b> 1 ハ長調の主要三和音 I・IV・V の和音 2 コードネームについて 3 ヘ長調の主要三和音 I・IV・V の和音 4 ト長調の主要三和音 I・IV・V の和音 5 メジャーコード・マイナーコード 6 イ短調の主要三和音 I・IV・V の和音 7 セブンのコード C7, F7, G7, D7, E7 8 コードによる平易な伴奏 9 ハ長調→ト調、ハ長調→ヘ調への移調奏 10 旋律を歌い、コードによる伴奏をつける 11 コードのみの伴奏で旋律を歌う 12 弾き歌いを人前で発表する 13 和音の教え方 アクティブランニング 14 グループによるALの成果発表 15 コードを使って即興演奏に挑戦		
成績評価 方 法	演習問題及び器楽実技・歌唱力・伴奏力（技能、意欲、態度、表現）75%、 グループ演習評価（態度、協調性、表現）25%			
テキストおよび 参 考 文 献	音楽（山口短期大学） 初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領 第6節 音楽			
メ ッ セ ー ジ な	義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地を造りましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
器楽 I Instrumental Music I		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	1	必修	上田 奈奈・宮本 千穂・ 細山田 亜矢子	
概要				
初等科音楽教育に必要なピアノ演奏技術と歌唱教材伴奏の修得を目指す。 それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。 個人レッスンの形態で演習する。				
到達目標				
(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 (2) 正しい楽譜の読み方を学べる。 (3) 各学年の共通歌唱教材について学び、演奏できる。				
授業内容とすすめ方				
1 ピアノの扱い方 演奏の方法 演奏楽曲の説明 2 ピアノ演奏① バイエル 15 番 3 ピアノ演奏② バイエル 15 番 4 ピアノ演奏③ バイエル 28 番 5 ピアノ演奏④ バイエル 28 番 6 ピアノ演奏⑤ バイエル 48 番 7 ピアノ演奏⑥ バイエル 48 番 8 ピアノ演奏⑦ バイエル 51 番 9 ピアノ演奏⑧ バイエル 51 番 10 音階について① ハ長調、ニ長調、ヘ長調 11 音階について② ト長調、イ短調 12 「アラベスク」 —1 週目— 13 「アラベスク」 —2 週目— 14 「アラベスク」 —3 週目— 15 「アラベスク」 —4 週目—				
成績評価 方 法	毎回の学習状況（関心・意欲・態度）50%、定期試験（表現力・理解力・判断力）50%			
テキストおよび 参 考 文 献	泉 靖彦他「初等科音楽教育法」音楽之友社 「バイエル教則本」全音出版社 「ブルグミュラー25の練習曲」全音出版 小学校学習指導要領 第6節 音楽			
メ ッ セ ー ジ な ど				

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	1	選択	田中 奏子・安部 浩信	
概要				
器楽合奏法は初等音楽教育に必要な様々な楽器の知識を習得し、合奏方法とその指導法を学ぶ。 また、歌唱教材のピアノ伴奏法を習得する。				
到達目標				
(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。 (2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。 (3) 様々な合奏楽器を使い合奏ができる。				
授業内容とすすめ方				
1 リコーダー演習法 1週目ー 2 リコーダー演習法 2週目ー 3 リコーダー演習法 3週目ー 4 合奏楽器の特徴と扱い方 1週目ー 5 合奏楽器の特徴と扱い方 2週目ー 6 合奏① ー1、2、3年生対象曲1週目ー 7 合奏② ー1、2、3年生対象曲2週目ー 8 合奏③ ー1、2、3年生対象曲3週目ー 9 合奏(創作)① ー4、5、6年生対象曲1週目ー 10 合奏(創作)② ー4、5、6年生対象曲2週目ー 11 合奏(創作)③ ー4、5、6年生対象曲3週目ー (発表会) 12 ピアノ伴奏法① ー歌唱教材伴奏法1、2年 13 ピアノ伴奏法② ー歌唱教材伴奏法3、4年 14 ピアノ伴奏法③ ー歌唱教材伴奏法5、6年 15 コンサート鑑賞				
成績評価 方 法	毎回の学習状況(関心・意欲・態度)50%、発表点(技能・表現力)30% レポート(理解度、判断力、意欲)20%			
テキストおよび 参 考 文 献	泉 靖彦 他「初等科 音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領 第6節 音楽			
メ ッ セ ー ジ な ど	初等科音楽教育の実践的指導法を学びます。			



授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
図画工作 Arts and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	佐古 淳子	
概要				
<p>図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主におこなう。工作は教材研究に、鑑賞は美術史に託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。</p>				
到達目標				
<p>(1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具などについて説明することができる。  (2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高めることができる。  (3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描くことができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】		【後期】		
1 オリエンテーション 2 鉛筆画の描き方・見方 ー手のデッサンー 3 手のデッサンの仕上げ 4 水彩画の製作 ーモチーフ選択・机上のレイアウトー 5 下描き① ー構図決定（鉛筆）ー 6 下描き② ー細部描画（鉛筆）ー 7 着彩① ー薄塗りー 8 着彩② ー画面全体を見ながら色を塗り重ねていくー 9 着彩③ ー少しずつ色を塗り重ねて深みを出すー 10 着彩④ ー淡彩で終わらないように注意するー 11 着彩⑤ ー色を重ねて深みを出すー 12 着彩⑥ ー色を重ねて深みを出すー 13 着彩⑦ ー画面全体が、まとまるように仕上げるー 14 着彩⑧ ー仕上げー 15 評価・講評		1 ポスターについて 2 色彩について 3 レタリングーゴシック体と明朝体①ー 4 レタリングーゴシック体と明朝体②ー 5 資料収集・構想・アイデアスケッチ 6 コピー・レタリングの考案 7 下描き 8 下絵 9 配色 10 着彩 11 烏口の使用法について 12 着彩 13 着彩 14 着彩・仕上げ 15 評価・講評		
成績評価 方 法	作品内容（完成度・技能・表現・発想力）50% 毎回の学習状況（意欲・関心・態度）30% 定期試験（知識・理解）20%			
テキストおよび 参 考 文 献	小学校学習指導要領 第7節 図画工作			
メ ッ セ ー ジ な ど	制作が主となる活動である。この実習を通じて、水彩絵の具とポスターカラーの扱い、色彩、画面構成、レタリングを学んでいきます。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
工芸 Craft		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	村上 芳明	
概要				
<p>粘土と木を主材料として製作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら形にする粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの製作をおこなう。</p> <p>後期では、削って形にする木を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを知る。材木を使って壁掛けのレリーフを製作する。木目の方向によって削り方の違いを認識する。後期のみ、採用試験対策の為、持ち込み不可の試験を行う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具基本的な知識を身につけることができる。</p> <p>(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。</p> <p>(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図に反映され作品を創造することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 授業演習の概要についてと心構え 2 概要及び焼物用粘土の取扱いについて 3 粗練りと菊練りの練り方 4 土鈴の製作 5 玉づくりの製作方法と製作 6 玉づくりの底削り方法 7 板づくりの製作方法と製作 8 板づくりの製作 9 板づくりの底削り方法 10 ひもづくりの製作方法と製作 11 ひもづくりの製作 12 ひもづくりの底削り方法 13 ひもづくりの底削りの仕上げ 14 施釉 15 鑑賞・評価		<b>【後期】</b> 1 概要及び木について 2 壁掛け作品のデザインを決定 3 彫刻刃の使用方法和役割り 4 レリーフデザインの決定と下描き 5 切削手順と方法 6 印刀による切削 7 背景の切削（荒彫り） 8 背景の切削（中彫り） 9 背景の切削（仕上げ彫り） 10 対象物の切削（荒彫り） 11 対象物の切削（中彫り） 12 対象物の切削（仕上げ彫り） 13 画面全体の仕上げ彫り 14 仕上げ（ニス塗装） 15 鑑賞・評価		
成績評価 方 法	作品を主体とし、次のように総合的に評価します。 焼き物作品（表現）45%、壁掛けレリーフ作品（表現）45%、試験（知識）10%			
テキストおよび 参 考 文 献	「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領 第7節 図画工作			
メッセー ジ な	毎回の授業の取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
体育 I Physical Education		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	子安 崇夫	
概要				
<p>小学校免許修得にふさわしい力を身に付けることを主眼に授業を行う。主は、小学校の体育科教育で対象とする種目の指導ができるということが中心である。子どもの教育に責任を持つためにふさわしい資質能力を身に付けることができるように授業を進めていく。そのために、「スポーツの科学」、「系統的指導法」、「運動の基礎技術」という言葉をキーワードにして行う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 「系統的指導」という言葉の意味がわかる。  (2) 種目に応じた「系統的指導」のあり方が「わかり」、ある程度「指導できる」。  (3) 「系統的指導」という観点から、「スポーツの科学」が理解できる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 オリエンテーション 2 小学校における体育科教育の実技内容の確認 3 マット運動の面白さについて考える（議論） 4 「議論」に基づいた、マット運動の面白さの実技 5 マット運動のオリエンテーション（理論） 6 マット運動のオリエンテーション（実技） 7 マット運動の空間構成を考慮した実技 8 マット運動の基礎技術の実技① －基礎技術を組み入れた3種目連続技－ 9 マット運動の基礎技術の実技② －3種目連続技の工夫－ 10 マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方① －感覚づくり－ 11 マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方② －感覚づくり及びステップ1－ 12 マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方③ －感覚づくり及びステップ2－ 13 マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方④ －感覚づくり及びステップ3－ 14 マット運動の基礎技術を取り入れた3種目連続技の工夫 15 まとめ		<b>【後期】</b> 1 オリエンテーション①（前期の振り返り） 2 オリエンテーション②（後期の授業について） 3 様々な種目の系統的指導法について 4 短距離走の科学（速く走るために）（議論等） 5 短距離走の科学（短距離走の実際） 6 自分の「走り」を科学する 7 短距離走における「歩幅走」の実際 8 短距離走における歩幅走の実技 9 短距離走のまとめ 10 長距離走の科学 11 自分の長距離走を科学する 12 長距離走の科学に基づいた実技 13 長距離走の科学を身に付ける 14 長距離走のまとめ 15 まとめ		
成績評価 方 法	授業時の学び（関心・意欲・態度・理解）20%、レポート（思考力・判断力）30%、実技の発表・記録等（表現・意欲・理解）50%			
テキストおよび 参 考 文 献	小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時資料を配布			
メ ッ セ ー ジ な ど				

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
リズム運動 Rhythmical Movement		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	1	必修	手島 史子	
概要				
<p>新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について認識するとともに基礎的なダンスの理論を理解する。</p> <p>また、日本の民族舞踊などの踊りの継承について考え、実技とともに歴史的な背景や継承の意義を追求し、踊り指導をする上での基礎を学ぶ。さらに、踊りを媒介にグループで共同創作する場を設け、豊かな表現方法の追求と、踊りの評価の意味について学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>(1) 民族舞踊である「みかぐら」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。</p> <p>(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解する。</p> <p>(3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法を修得する。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>1 オリエンテーションーリズム運動の魅力、様々な表現・踊りの特徴についてー</p> <p>2 今日のダンス・踊りを取り巻く背景と教育の中のダンス</p> <p>3 日本の伝統文化「みかぐら」について学ぶー地域の神楽を知るー</p> <p>4 「みかぐら」の基本の動き①ーわたり・めぐりー</p> <p>5 「みかぐら」の基本の動き②ーあしかけ、大ジャンプ、すさりー</p> <p>6 グルーピングおよび「場」の構成について</p> <p>7 「みかぐら」で使用する扇の製作</p> <p>8 基本練習とグループ練習①ーペア学習効果について・発表ー</p> <p>9 基本練習とグループ練習②ー踊りの連続性についてー</p> <p>10 「みかぐら」の発表と評価（発表会）</p> <p>11 「ソーラン節」の学習ー導入ー</p> <p>12 「ソーラン節」の意味と基本の動きーろこぎー</p> <p>13 「ソーラン節」の基本の動きー1番・2番ー</p> <p>14 模擬授業 その1（導入から動きの指導）</p> <p>15 模擬授業 その2（評価と振り返り）</p>				
成績評価 方 法	踊りの理解と修得（意欲・関心・態度）40%、 模擬授業での発表（身体的表現力・指導法の理解）30%・最終レポート（思考力・判断力）20%、扇の製作 10%			
テキストおよび 参 考 文 献	小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時配布資料			
メ ッ セ ー ジ な ど				

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
家庭 Home Economics		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択	三時 貴久子	
概要				
<p>小学校学習指導要領の「家庭」の目標および内容を理解する。教育実践に必要な知識と技術を習得する。全領域の教材を扱い、指導案の作成を練習し、模擬授業を体験する。模擬授業への検討・反省を通して教育実践への力を培いたい。</p>				
到達目標				
<p>(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。  (2) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。  (3) 演習、実習に主体的に取り組み、基礎的な知識・技能を身につける。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【前期】</b> 1 「家庭」の目標 2 学習指導要領（目標・内容） 3 指導計画の作成・内容の取扱い 4 「家庭」の特性と配慮事項 5 「家族・家庭生活」の展開 6 食事の役割と調理の基礎 7 「食領域」の教材を使った調理実習① ゆでる（卵・青菜） 8 「食領域」の教材を使った実践研究 栄養を考えた食事・1食分の献立 9 「食領域」の教材を使った調理実習② ご飯とみそ汁 10 「消費生活と環境」の展開 11 「消費生活」の基礎 売買契約 12 「物や金銭の使い方と買い物」の指導 13 「環境に配慮した生活」の指導 14 家族・家庭生活についての課題の設定 15 「家庭」と他教科との関連		<b>【後期】</b> 1 「衣料域」の展開 2 「衣料域」の実技演習① 道具の名称と使用上の注意 3 「衣領域」の実技演習② 手縫いの基礎 4 「布を用いた製作」材料と手順 5 「布を用いた製作」ミシンの基礎 6 「布を用いた製作」袋の製作① 7 「布を用いた製作」袋の製作② 8 「住領域」の教材を使った実践研究 9 「衣服の着用と手入れ」の指導 ボタン付けと洗濯 10 「食領域」の教材を使った調理実習③ いためる 11 「食領域」の教材を使った調理実習④ じゃがいも料理 12 指導案の作成の手順と演習 13 模擬授業の実践と改善点の討議 14 模擬授業の実践と改善点の討議 15 「食領域」と家族のだんらん		
成績評価 方 法	定期試験（知識・理解・表現）60%、取り組み姿勢（関心・意欲）40%			
テキストおよび 参 考 文 献	「家庭」山口短期大学 「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省			
メ ッ セ ー ジ な ど	小学校家庭科は、誰の実生活にも役立つ基本を学びます。 小学校教諭二種免許：選択必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
レクリエーション概論 Introduction to Recreation		全学科	1年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	選択	信田 百合夫	
概要				
<p>多様かつ複雑に変化する社会において、生涯学習の重要性が一層叫ばれるとき、レクリエーションへの社会的・時代的認識が高まる中で、理論に精通した有能な指導者の養成を図る。また、日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格を取得する。</p>				
到達目標				
<p>(1) レクリエーションの意義や歴史について支援できる。  (2) 現代社会とレクリエーション等における課題や、レクリエーション・インストラクターの役割について支援できる。  (3) レクリエーション事業展開・アセスメントに基づいたプログラムの作成ができるように支援できる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レクリエーションとは何か</li> <li>2 レクリエーション運動の歴史とその背景</li> <li>3 レクリエーション運動を支える使命と制度</li> <li>4 レクリエーション組織</li> <li>5 レクリエーション支援とレクリエーション・インストラクターの役割</li> <li>6 ライフスタイルとレクリエーション</li> <li>7 高齢社会の課題とレクリエーション</li> <li>8 高齢者への働きかけ</li> <li>9 少子化の課題とレクリエーション</li> <li>10 少子化への働きかけ</li> <li>11 レクリエーション事業の考え方</li> <li>12 レクリエーション事業の展開とプログラム</li> <li>13 個人のアセスメントに基づいたプログラム</li> <li>14 市民を対象とした事業のつくりかた</li> <li>15 レクリエーション活動の安全管理</li> </ol>				
成績評価 方 法	定期試験(知識・理解・思考)80%、意欲・態度20%			
テキストおよび 参 考 文 献	(財)日本レクリエーション協会 編「レクリエーション支援の基礎」			
メ ッ セ ー ジ な ど	人間としての遊び、レクリエーションの意義や重要性を理解し、「レクリエーション・インストラクター」の資格を取得しましょう。 レクリエーション・インストラクター：必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
レクリエーション実技 Practical Skill on Recreation		全学科	1年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実技	1	選択	信田 百合夫	
概要				
<p>多様かつ複雑に変化する社会において、生涯学習が一層叫ばれるとき、レクリエーションへの社会的・時代的認識が高まり一般化する中で、レクリエーション実技に精通した人材の養成が必要である。そのためコミュニケーション・スキルを身につけると共に、日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格を取得する。</p>				
到達目標				
<p>(1) コミュニケーション・ワークで必要なホスピタリティについて支援できる。  (2) ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについて支援できる。  (3) ゲーム・ソング・ダンスの基礎的なものが支援できる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーション・ワーク</li> <li>2 レクリエーションにおけるホスピタリティ</li> <li>3 コミュニケーションをとるために必要な態度・行動</li> <li>4 ホスピタリティの示し方</li> <li>5 ホスピタリティトレーニング</li> <li>6 集団の中でのホスピタリティ</li> <li>7 アイスブレイキングの意義</li> <li>8 アイスブレイキングの基礎技術</li> <li>9 アイスブレイキングのプログラミング</li> <li>10 ゲーム① ー数集まり・後出しジャンケン 他ー</li> <li>11 ソング① ーハローハロー・あの青い空のように 他ー</li> <li>12 ダンス① ーチビッコカウボーイ・炭坑節・ハブナルヤイン 他ー</li> <li>13 ゲーム② ー木の中のリス 他ー</li> <li>14 ソング② ー世界はひとつ・四季の歌 他ー</li> <li>15 ダンス② ー愛のハーモニー・東京音頭ー</li> </ol>				
成績評価 方	実技試験(技能・表現・意欲)80%、意欲20%			
テキストおよび 参考文献	(財)日本レクリエーション協会 編「レクリエーション支援の基礎」			
メッセー ジ	ホスピタリティを理解し、色々なアイスブレイキングの支援ができ、「レクリエーション・インストラクター」の資格を取得しましょう。 レクリエーション・インストラクター：必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
レクリエーション指導者実習 Training for Recreation Leaders		全学科	1年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	1	選択	信田 百合夫	
概要				
<p>有能な日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格取得に必要なレクリエーション実習は、学外での「教育実習」2/3単位と「事業参加」1/3単位で履修する。但し、事業参加は必修とする。(事業参加3回で1/3単位)</p>				
到達目標				
<p>(1) レクリエーション・インストラクターとして必要な内容について支援できる。  (2) 色々なレクリエーション事業に参加でき、スタッフとして支援できる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>教育実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習の研究 (小学校・幼稚園全科)</li> <li>・ 教育実習 (実習校・実習園での実習)</li> </ul> <p>事業参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国一斉「あそびの日」キャンペーン (県内外の市区町村・レクリエーション協会等の事業) 全国的に開催される「あそびの日」のキャンペーンとして、特定の期間に一斉に全国各地の市町村やレクリエーション協会等で実施される事業で、ニュースポーツやウォークラリー等、様々な催しが開催される。 これらの事業に自由な形で参加可能な所へ参加する。</li> <li>・ 県内レクリエーション事業 (県内市・町・レクリエーション協会レクリエーション事業) 県内の市町やレクリエーション協会等で実施されるレクリエーション事業で、ボランティアやスタッフとして自由に参加する。</li> <li>・ 山口県スポーツ・レクリエーションフェスティバル (山口県レクリエーション協会主催事業) 山口県レクリエーション協会の主催で体育の日を中心として、各種のレクリエーション団体が開催するスポーツやレクリエーションに、ボランティアやスタッフとして自由な立場で参加する。</li> </ul>				
成績評価 方 法	支援技能 80%、意欲・態度 20%			
テキストおよび 参 考 文 献				
メ ッ セ ー ジ な ど	レクリエーションを多くの人に支援し、自らもすばらしい「レクリエーション・インストラクター」として活躍できるよう資格を取得しましょう レクリエーション・インストラクター：必修科目			



授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
卒業研究 Graduation Research		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	中原 隆・手島 史子 村上 芳明・福屋 いずみ	
概要				
<p>子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけ出す。その成果を卒業研究・保育総合研究発表会で、展示もしくは舞台上で発表する。最後に、報告集にまとめる。</p>				
到達目標				
<p>(1) 研究テーマを明確にし、研究の目的、方法、結果、考察まで、研究を深めていくことができる。  (2) 各自のテーマに沿った内容で、説得力のある発表することができる。  (3) 各自が発表した内容を、報告集としてまとめることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<p>平成29年度は、下記のようなテーマで研究が行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童が逃げない学級づくりの研究</li> <li>② 道徳の授業の研究 - 「半分のおにぎり」の授業から-</li> <li>③ 国語科 漢字の教え方 - 「同じ読みの漢字に気をつけよう」の授業から-</li> <li>④ 国語科 物語文の教え方 - 「ごんぎつね」の授業から</li> <li>⑤ 国語科 物語文の教え方 - 「大造じいさんとガン」の授業から-</li> <li>⑥ 算数科 面積の公式の教え方 - 「平行四辺形」の授業から-</li> <li>⑦ 子どもの興味・関心を引き出す授業の研究</li> <li>⑧ ベトナムの文化の紹介</li> <li>⑨ ベトナムでの障害児への支援</li> </ul>				
成績評価 方 法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、卒業研究発表会での発表（知識・技能、思考力・判断力・表現力）30%、報告集作成（表現力）20%			
テキストおよび 参 考 文 献	必要に応じて自分自身で選択、購入すること			
メ ッ セ ー ジ な ど	2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
情報科学概論 Introduction to Information Science		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	選択	日置 智子	
概要				
コンピュータの基本構成や動作原理、情報処理の流れ、情報化社会におけるコンピュータの役割について学ぶ。				
到達目標				
(1) コンピュータの基本構成と動作原理を説明できる。 (2) コンピュータ内での情報の表現方法について説明できる。 (3) 通信ネットワーク、暗号化など情報処理・通信技術の基本的な事項について説明できる。				
授業内容とすすめ方				
1 オリエンテーション ―情報科学とは何か― 2 情報伝達の歴史 3 情報の表現 ―数の表現― 4 情報の表現 ―文字・図形・音声・動画の表現― 5 論理演算と論理回路 6 コンピュータの基本構成 7 ハードウェア 8 ソフトウェア 9 コンピュータ内における情報処理の流れ 10 アルゴリズムとプログラミング 11 通信ネットワーク 12 情報セキュリティと暗号化 13 人工知能 14 これからの社会と情報科学技術 15 まとめ				
成績評価 方 法	受講態度・レポート課題（関心・意欲・態度）50% 筆記試験（知識・理解・思考力・判断力）50%			
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：なし 参考文献：講義中に適宜指示			
メ ッ セ ー ジ な ど				

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
情報処理実習 I Information Processing Practice I		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	1	選択	福原 道照	
概要				
<p>今日、日常生活やあらゆる分野において、情報処理は欠かすことは出来ない。  本授業では、前半は、情報処理とは何か・パソコンの起動・インターネット・ワープロ基本操作等をわかり易く説明し、実践しながら操作方法をマスターしてゆく。  後半は、表の作成を主に授業を行う。目的とする表のレイアウト方法を学び、より良い表のシートを作成してゆく。具体的には自分史シート、表計算表、履歴書等を作成する。</p>				
到達目標				
(1) パソコンの基本的操作を行うことができる。 (2) レイアウトの良い表を作成することができる。 (3) 指導案等作成に活用することができる。				
授業内容とすすめ方				
1 ガイダンス：建学の精神、注意事項等、ファイルの配布・整理等 2 PCの起動・操作方法　ーパスワードー 3 Wordによるテーブル(表)の作成方法 4 表<課題1>の作成 5 表<課題2>の作成 6 表<課題3>『自分史シート』の作成 7 <課題4>『自分史シート』の記入 8 Excelの基本 9 表計算<課題5>の作成 10 表計算<課題6>の作成 11 Wordによる履歴書シートの作成方法 12 履歴書シート<課題7>の作成 13 履歴書の書き方：<課題8>履歴書鉛筆記入 14 <課題9>履歴書ボールペン記入 15 全ファイルの確認・整理・提出、情報処理実習II予告：図形描画				
成績評価 方 法	受講態度（意欲・関心・態度）30% シート作成・提出（理解・思考力・判断力・表現力）70%			
テキストおよび 参 考 文 献	山口短期大学発行 授業用テキスト『情報処理実習 I』佐藤和雅著			
メ ッ セ ー ジ な ど	小学校教諭二種免許：必修科目			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
文書処理演習 Word Processing Exercises		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	選択	福原 道照	
概要				
<p>意思や情報を正確に伝達するために文書が利用される。</p> <p>本授業では、前半は、ワープロソフトウェアを利用したビジネスにおける社外文書作成の基本を学ぶ。また、教育実習に関わる礼状など手書きによる文書の書き方なども学ぶ。</p> <p>後半は、表作成の実践的な活用方法を学ぶ。具体的には、小学校の学習指導案の書き方を学び作成する。最後に作成した学習指導案を基に模擬授業を行う。</p>				
到達目標				
<p>(1) 基本的な文書を作成することができる。</p> <p>(2) 実践的な表を作成することができる。</p> <p>(3) 基本的な学習指導案を作成することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・文書処理の概要</li> <li>2 文書レイアウト・ビジネス文書の形式</li> <li>3 文書の校正・修正</li> <li>4 案内文の書き方・作成・提出</li> <li>5 通知文の書き方・作成・提出</li> <li>6 依頼文の書き方・作成・提出</li> <li>7 礼状文の書き方・作成</li> <li>8 礼状文の作成・提出</li> <li>9 学習指導案の書き方、学習指導案例の紹介、インターネットによる学習指導案検索</li> <li>10 教科 学習指導案の書き方・作成① -教科A、Bの全体構成-</li> <li>11 教科 学習指導案の書き方・作成② -教科Aの時間配分-</li> <li>12 教科 学習指導案の書き方・作成③ -教科Bの時間配分-</li> <li>13 教科 学習指導案の書き方・作成④ -教科A、Bの完成・提出-</li> <li>14 作成した学習指導案での模擬授業実践① -教科Aの模擬授業-</li> <li>15 作成した学習指導案での模擬授業実践② -教科Bの模擬授業-</li> </ol>				
成績評価 方 法	<p>授業への取り組み（意欲・関心・態度）30%、 シート作成・提出（理解・思考力・判断力）50%、 模擬授業実践（発表・表現力）20%</p>			
テキストおよび 参 考 文 献	<p>適宜、資料を配布する。</p>			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>小学校教諭を目指す学生の受講を望む。</p>			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
障害児教育 Education for Disable Children		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	選択	鄭 暁林・中津 愛子	
概要				
特別の支援を必要とする児童の発達特性と教育上の配慮・支援について学ぶ。				
到達目標				
(1) 特別の支援を必要とする児童の障害の特性、心身の発達、心理的特性について説明できる。 (2) 特別の支援を必要とする児童の生活上の困難さを理解するとともに、個別の指導計画、支援計画の意義について理解を深める。 (3) 特別の支援を必要とする児童に対する支援の方法について説明できる。				
授業内容とすすめ方				
1 特別支援教育とは何か 2 子どもの心身の発達 3 知的障害① ー知的障害の定義と障害特性ー 4 知的障害② ー知的障害がある子どもの教育的ニーズと個別の配慮・支援ー 5 知的障害③ ー知的障害がある子どもの支援の実際・個別の指導計画ー 6 肢体不自由① ー肢体不自由の定義と障害特性ー 7 肢体不自由② ー肢体不自由がある子どもの教育的ニーズと個別の配慮・支援ー 8 肢体不自由③ ー肢体不自由がある子どもの支援の実際・個別の指導計画ー 9 発達障害① ー自閉症スペクトラム障害の障害特性ー 10 発達障害② ー学習障害の障害特性・注意欠陥／多動性障害の障害特性ー 11 発達障害③ ー発達障害がある子どもの教育的ニーズと個別の配慮・支援ー 12 発達障害④ ー発達障害がある子どもの支援の実際・個別の指導計画ー 13 視覚障害 ー視覚障害の障害特性、教育的ニーズと個別の配慮・支援ー 14 聴覚障害 ー聴覚障害の障害特性、教育的ニーズと個別の配慮・支援、個別指導計画ー 15 特別支援教育の今後の課題				
成績評価 方法	講義中の感想レポート（関心・意欲・態度）30%、課題レポート（知識・理解）50%、活動への参加（思考力・判断力・表現力）20%			
テキストおよび 参考文献	小学校学習指導要領解説（総則編）			
メッセージ など	障がいがある児童は、小学校の通常学級や特別支援学級、さらに特別支援学校などに在籍しています。教育に当たっては、子どもの発達の程度や興味などの個人差に加え、障がいの特性を踏まえた支援が必要とされ、個別プログラムの作成、実践が求められます。			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
ボランティア実習 Volunteer Practice		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次 2年次	1年次後期 2年次前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実習	2	選択	寺本 公思・手島 史子・村上 芳明	
概要				
<p>1年後期と2年前期の授業である。</p> <p>この「ボランティア実習」の授業は、「介護等体験の実習の研究」ということである。</p> <p>この授業では、「教師」という職業の「資質能力」について言及しながら具体的な内容に迫っていく。また、少なくとも、子どもたちとかかわるとき、子ども達に責任が持てる「人間性」ということを考える。</p>				
到達目標				
<p>(1) 教師の資質能力について意識することができる。</p> <p>(2) 教師の資質能力を意識した子どもとの関わりのあり方について専門的に考えることができる。</p> <p>(3) 「介護等体験実習」の目的を考慮し、自分の課題を導き出し、充実した実習ができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【1年次後期】</b> 1 オリエンテーション 寺本・手島 2 介護等体験の実習のシステム 寺本・手島 3 教育免許取得するということを考える① ー目的・ 目標からー 手島 4 教育免許取得するということを考える② ー内容からー 手島 5 介護等体験の実習に出るまでの流れとかかわる人の 仕事内容について 手島 6 教師の「資質能力」について① 寺本 ー言葉の概念から考えるー 7 教師の「資質能力」について② 寺本 ー法律から考えるー 8 教師の「資質能力」について③ 手島 ー具体的事例から考えるー 9 教師の「資質能力」について④ 寺本 ー教師の不祥事から考えるー 10 2年次生『介護等体験』体験談 手島 11 特別支援学校とは 寺本 12 特別支援学校での実習の留意点 寺本 13 社会福祉施設とは 手島 14 社会福祉施設での介護等体験の実習の留意点 手島 15 介護等体験の実習の心構え(まとめ)・希望調査 寺本・手島		<b>【2年次前期】</b> 1 オリエンテーション 寺本・手島 2 介護等体験の実習希望者プロフィール等の記入 及び実習日程の確認と留意事項 寺本 3 実習で学ぶこと・考えること 寺本 4 車椅子の実技①(基本) 手島 5 車椅子の実技②(応用) 手島 6 実習日誌の書き方 ー意味と目標ー 寺本 7 実習日誌の書き方 ー内容ー 手島 8 実習日誌の書き方 ー実際ー 手島 9 障害者・高齢者とのコミュニケーションの創造 手島 10 自立を視野に入れた障害者・高齢者とのかかわり 寺本 11 日本における高齢者福祉の現状 手島 12 日本における障害児教育の現状 手島 13 教員免許を持って現代社会を生きるということ 寺本 14 自立について考える 寺本 15 まとめ 寺本・手島		
成績評価 方 法	授業時の発表(意欲・関心・態度・理解)20%、実習の日誌(思考力・判断力)30%、レポート(思考力・判断力)30%、実習(表現力・活動力)20%			
テキストおよび 参 考 文 献	授業時に指示			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えていって欲しい。</p> <p>小学校教諭二種免許：必修科目</p>			

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
教育実習の研究 Study of Practical Teaching at Elementary School		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次 2年次	1年次後期 2年次前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	1	選択	中原 隆・手島 史子・福屋 いずみ	
概要				
<p>学習指導の知識を生かし、模擬授業にチャレンジすることで、教壇に立つ準備を進めるとともに、指導主事による「学習指導」「生徒指導」「人権教育」の講義や市内公立小学校における参観実習などを通して、教育現場の実態にも直接ふれ、教師として必要な資質や能力の向上を図り、教師となる心構えを培っていく。</p>				
到達目標				
<p>(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。  (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。  (3) 模擬授業や小学校の参観実習を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<b>【1年次後期】</b> 1 オリエンテーション 中原・手島 2 教育実習の意義と目的 中原 3 教育実習の内容 中原 4 授業をつくる①(発問・資料・板書) 中原 5 授業をつくる②(発問・資料・板書) 中原 6 小学校参観実習① -説明- 中原 7 小学校参観実習② -校長講話- 中原 8 小学校参観実習③ -授業参観- 中原 9 小学校参観実習④ -授業参観- 中原 10 市教委講話 -学習指導- 中原 11 市教委講話 -生徒指導- 中原 12 参観実習・学習指導・生徒指導の振り返り 中原 13 先輩に学ぶ教育実習 中原 14 実習生プロフィールの作成 中原・手島 15 実習校の教育方針や運営体制の調査 中原		<b>【2年次前期】</b> 1 オリエンテーション 2 模擬授業① -説明と準備- 中原 3 模擬授業② -授業実践と協議- 中原・手島 4 模擬授業③ -授業実践と協議- 中原・手島 5 模擬授業④ -授業実践と協議- 中原・手島 6 模擬授業⑤ -模擬授業の検討- 中原・手島 7 小学校参観実習① -説明- 中原 8 小学校参観実習② -校長講話- 中原 9 小学校参観実習③ -授業参観- 中原 10 小学校参観実習④ -授業参観- 中原 11 市教委講話 -人権教育- 中原 12 参観実習・人権教育の振り返り 中原 13 実習校への事前打合せについて 中原 14 実習日誌の書き方について 中原 15 実習中の健康管理について 中原		
成績評価 方 法	授業への取り組み(関心・意欲・態度)50%、模擬授業(判断力・表現力)10%、課題・レポート(思考力・表現力)20%、参観実習(関心・意欲・態度)20%			
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト:「教育実習の研究」山口短期大学「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献:文部科学省「小学校学習指導要領」東京書籍			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>教育実習のための準備を行います。実習に関する重要書類や手続きに関することも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み上げ、教育実習へ行くことの意味を理解し、教育に携わることの使命感と緊張感をもてるようになりましょう。  小学校教諭二種免許の必修科目です。</p>			